



すべての子どもが 自分らしく学べる学校に

東京都 世田谷区立桜丘中学校 校長 さくらがおか 西郷孝彦

日本や世界の未来に思いをはせた時、これからの教育に必要なのは、イノベーションを興せる人材の育成だと考えています。これまでは、苦手分野や欠点を補い、皆が平均的な力を持つようにする教育が重視されてきました。これからは、それぞれの得意分野や個性を伸ばし、誰にも負けない力を育む教育が求められているのではないのでしょうか。

そうした教育を実現しようと、私はどんな生徒でも自分に合った学びを可能とする学校づくりを進めてきました。例えば、職員室の前の廊下に机とイスを置き、生徒がいつでも来て学べるようにしました。教室に入れない生徒が自習したり、帰国生徒が英語の授業中の独自学習として、大使館と英文のメールをしながら難民問題を考えたりする場所になっています。また、タブレットの持ち込みを可とし、読み書きが苦手な生徒の学習を支援するツールとしました。

才能が開花するきっかけは、どこにあるか分かりませんから、生徒のやりたいことを実現させることが大切だと考えています。例えば、放課後の自由活動として、本校には調理やコンピューター、美容、ギターなどがありますが、いずれも生徒の希望で始めました。予算や講師は、教員が

アイデアを出し合って確保。また、昨年度の生徒総会で決まった定期考査の廃止はこの4月から実施し、評価は複数回の小テストで行っています。生徒の希望を実現しようと、教員が行動する姿を見せることで、生徒にも物事をよりよくするために挑戦する姿勢が育つのではないのでしょうか。

eラーニングや遠隔授業などが義務教育の場に普及することも、一人ひとりの才能を開花させる教育を後押しすると思います。学校や教室に来られない子どもにも正規の授業を受けるチャンスが増え、「不登校」であること自体が問題ではなくなるかもしれません。そうした時代が来れば、学校という場の存在や、学校で一斉授業を行う意味がますます問われることになります。いかに学びのスタイルが変わり、個別最適化が進んでも、私は、学校がすべての子どもにとって「そこに行けば仲間や先生が支えてくれる」と思える場であってほしいと願っています。

自分が認められれば、他者も受け入れられるようになります。公立学校ならではの様々な背景を持つ子ども一人ひとりが自分も他者も認めて伸ばす教育を実現することが、未来の社会の発展につながるのではないのでしょうか。

さいごう・たかひこ

1954年、神奈川県横浜市生まれ。横浜の様々な異国文化に触れながら育つ。上智大学理工学部卒業後、1979年、理科と数学科の教員として入都。特別支援学校を経て、大田区、品川区、世田谷区で教諭、副校長を歴任。2010年度から現職。趣味はギター、スピーカー製作など。

NEXT >>>

日本教育カウンセラー協会理事
藤川 章氏